状況・学校別一覧

＜用語の解説＞

1　「構造」欄に「RC」とあるのは鉄筋コンクリート造を、「SRC」とあるのは鉄骨・鉄筋コンクリート造を、「S」とあるのは鉄骨造を、「CB」とあるのはコンクリートブロック造、「W」とあるのは木造をいます。

2　「区分」蘭に「旧基準」とあるのは新耐震基準施行（昭和56年6月）以前に建築されたものを、「新基準」とあるのは新耐震基準施行後（昭和56年7月以後）に建築されたものをいいます。

3　(1)「新基準」との表示のあるものは耐震性がありますので、「区分」欄から右の各欄はすべて色を変えています。

(2)「旧基準」との表示のあるもののうち改修済みのもについては、「改修済」と記載した上で「改修年度」及び「改修後」の「Is値」、「CT×SD値」及び「q値」(後述)をそれぞの欄に掲げてあります。

(3)「旧基準」と表示のあるものうち未改修のもについては、「優先度調査」、「第１次診断」又は「第２次診断」のいずれかが実施されていますので，これらのいずれか該当する欄にデータを掲げてあります。

4　(1)　「優先度調査」は正確には「耐震化優先度調査」とい、学校の設置者がどの学校施設から耐震診断を実施すべきかその優先度を検討することを主な目的として実施するもので，優先度の高いものから順に1から5までのランク付けをすることとなっています。【コンクリート強度、老朽化、プラン、耐震壁の配置、想定震度により優先度ランクを判断する方法】

「優先度調査」を実施した年度を「年度」欄に、優先度ランクを「ランク」欄に掲げてあります。

(2)「第１次診断」は，個別の建物の耐震性能を**簡略**に評価する診断方法です。【設計図書で壁及び柱断面積のコンクリート強度のみを用いて耐震性能を判定する診断方法】

「第１次診断」を実施した「年度」及び「Is値」(後述)を，それぞの欄に掲げてあります。

(3)「第２次診断」は，個別の建物の耐震性能を**詳細**に評価する診断方法です。【柱・壁の破壊するまでの強度（終局強度）を算出し、鉄筋及びコンクリート強度を判断する診断方法】

「第２次診断」を実施した「年度」並びに「Is値」及び「CT×SD値」,「q値」(後述)を，それぞの欄に掲げてあります。

5　(1)「Is」（構造耐震指標）は，建築物の耐震性能（地震に対する安全性）を数値化したもので，その値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。国土交通省告示等によれば第１次診断により算定したIs値が0.8以上の場合及び第２次診断等により算定したIs値が0.6以上の場合は，耐震性がある建物ということなります。

※避難施設となっている学校校舎、体育館等の施設は、大地震後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を利用できる事を目標とし、人命の安全性に加えて機能確保が図られIs値は0.6×1.25（重要度係数）=0.75が必要となります。

(2)「CT×SD値」とは、CT（累積強度指標）とSD（形状指標）をかけた値で、この値が低ければIs値が高くても安全とはいえません。（RC造の場合）

(3)「q」（保有水平耐力に係る指標）は、地震による水平方向の力に対して建物が対応する強さを表すもので、その値が大きいほどよく1.0以上が目標値とされています。（S造の場合）

2016.4.1現在

No.	学校名	棟用途	棟		建築年月			構造	階数	面積	区分	改修状況	優先度調査		第1次診断		第2次診断				改修後			
			番号	枝番	元	年	月			（㎡）			年度	ランク	年度	Is値	年度	Is値	CT×SD値	q値	改修年度	Is値	CT×SD値	q値
1	志賀小	校	001		H	28	1	RC	3	8,977	新基準													
2		屋	002		S	54	6	SRC	1	1,444	旧基準	改修済									H19	0.81	1.28	
3	富来小	校	001	1	S	49	09	RC	3	1,701	旧基準	改修済									H17	0.74	0.74	
4		校	001	2	S	49	09	RC	3	1,130	旧基準	改修済									H17	0.97	0.88	
5		屋	003		H	20	03	RC	1	962	新基準													
6		校	008		H	17	02	RC	2	1,511	新基準													
7	富来中	校	001	1	S	38	11	RC	3	644	旧基準	改修済									H13	0.88	0.88	
8		校	001	2	S	43	06	RC	3	765	旧基準	改修済									H13	0.88	0.88	
9		校	001	3	S	44	03	RC	3	1,097	旧基準	改修済									H13	0.88	0.88	
10		屋	006		S	45	09	S	1	832	旧基準	改修済									H24	1.02		1.86
11		校	012		S	49	08	RC	3	991	旧基準	改修済									H14	0.77	0.77	
12		校	013		S	49	08	RC	2	91	旧基準	改修不要					H12	1.14	0.36					
13		屋	014		S	54	09	RC	1	1,228	旧基準	改修済									H24	0.90	1.23	
14		校	015		S	56	07	RC	3	970	旧基準	改修済									H14	0.76	0.76	
15		屋	019		S	59	06	RC	1	537	新基準													
16	志賀中	屋	001		H	18	06	SRC	3	4406	新基準													
17		校	002		H	18	12	RC	3	5656	新基準													
18		校	003		H	18	12	RC	2	693	新基準													
19		校	004		H	18	12	RC	3	3,050	新基準													
20		校	005		H	18	12	S	3	80	新基準													
21		校	006		H	18	12	S	2	25	新基準													
22		校	007		H	18	12	S	2	30	新基準													
23		校	008		H	18	12	S	2	27	新基準													
24		校	009		H	18	12	S	2	82	新基準													

新基準施設
未耐震施設

※今回の更新内容は志賀地域7小学校の統合により廃校となる施設を上記一覧から削除し、又、統合小として開校する志賀小の校舎棟を追加するものである。

上記更新により
○小学校施設　　6棟（ 新基準　3棟、旧基準　3棟【内未耐震化　0棟】）
○中学校施設　　18棟（ 新基準　10棟、旧基準　8棟【内未耐震化　0棟】）
合計　24棟（ 新基準　13棟、旧基準　11棟【内未耐震化　0棟】）